

レセプト電算データからの一部データ移行手順

レセプト電算データからのデータ移行は、診療行為でD O参照を可能とするためのものです。プログラムはプログラム更新により最新版を適用してください。

1 プログラムの適用

レセプト電算データのデータ移行プログラムの最新版をプログラム更新により適用してください。

最新版のパッチ提供情報

ver4.8.0の場合 パッチ提供（第16回）（平成27年7月27日提供）

ver4.7.0の場合 パッチ提供（第76回）（平成27年7月27日提供）

2 処理の流れ

ORCAプロジェクトホームページで公開中の“他社レセコンからのデータ移行について”（<http://www.orca.med.or.jp/receipt/use/convert.html>）に沿って通常のデータ移行を実施します。

通常のデータ移行が終了しましたら、レセプト電算データからのデータ移行処理を繰り返し実施可能とするために、データベースをバックアップしてください。

レセプト電算データからデータ移行処理を実施します。

3 処理手順

3. 1 レセプト電算データファイルを準備します。

レセプト電算データファイル（Shift_JIS）の文字コードをEUCに変換します。

（例）レセプト電算データファイル：RECEIPTC.UKE

文字コード返還後ファイル：RECEIPTC-EUC.UKE

```
$ nkf -SeLu RECEIPTC.UKE > RECEIPTC-EUC.UKE
```

-S シフトJISと仮定して処理する

-e EUCコードに変換する

-Lu 改行コードをLFにする

留意事項

患者氏名に拡張漢字を含む場合は、公開されています「データ移行仕様書」を参照してください。

3. 2 パラメータファイルを準備します。

/etc/jma-receipt/ORCADC.PARA（root権限）に以下の内容を追加指定します。

@01-C	レセプト電算データファイル（文字コードEUC）
@02-C	コンバートエラーファイル
@09-C	レセプト電算データコミットカウント
@11-C	レセプト電算データエラーカウント

レセプト電算データからの一部データ移行手順

指定例

レセプト電算データファイルは、/var/tmp/RECEIPTC-EUC.UKE とします。
コンバートエラーファイルは、/var/tmp/ORCVTRECEDEN_ERR.txt とします。
コミットカウント、エラーカウントは6桁で設定します。

```
@01-C:/var/tmp/RECEIPTC-EUC.UKE
@02-C:/var/tmp/ORCVTRECEDEN_ERR.txt
@09-C:000500
@11-C:000000
```

コメントレコード（先頭8から始まるコード）で移行したくないものをパラメータファイルに指定してスキップすることができます。

例えば、840000058 [日]、840000059 [月 日]などをスキップする場合は、以下のよう
に設定します。

@12-nnn: コメントコード（9桁）
nnn は 001 から 200 までの連番で指定します。

```
@12-001:840000058
@12-002:840000059
```

3. 3 処理を開始します。

```
$ sudo -u orca /usr/lib/jma-receipt/bin/orcvt_exec.sh ORCVTRECEDEN ¥
/etc/jma-receipt/ORCADG.PARA
```

※コマンドは続けて1行で入力していただいてもかまいません。

4 その他

- データのマッチングは患者番号で行いますので、レセプト電算データのカルテ番号に、患者番号が記録されていることが条件となります。
- レセプト電算データからデータ移行された診療データは、日レセ独自の診療行為入力方法に完全対応はできません。診療行為入力でD O参照から展開した場合に、入力エラーとなる場合があります。